

再生・感染病理学

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	1 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	2 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	1 人	
大学院学生（うち他講座から）	3 人	(3 人)
研究生	1 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	1 人	
その他（技術補佐員等）	3 人	
合計	13 人	

2 教員の異動状況

岩下 寿秀（教 授）（H20.12.1～現職）

小杉伊三夫（准教授）（H15.11.1～H.19.3.31 助教授；H19.4.1～現職）

河崎 秀陽（助 教）（H17.4.1～H19.3.31 助手；H19.4.1～現職）

目黒 史織（助 教）（H25.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	9.91	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	2 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Kawasaki H*, Kosugi I, Sakao-Suzuki M, Meguro S, Arai Y, Tsutsui Y, Iwashita T. Cytomegalovirus initiates infection selectively from high-level $\beta 1$ integrin-expressing cells in the brain. Am J Pathol. 2015 May;185(5):1304-23. (IF: 4.591)
2. Kawasaki H*, Kosugi I, Sakao-Suzuki M, Meguro S, Tsutsui Y, Iwashita T. Intracerebroventricular and Intravascular Injection of Viral Particles and Fluorescent Microbeads into the Neonatal Brain Journal of Visualized Experiments(JOVE) (IF: 1.325)

インパクトファクターの小計 [5.92]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Ikuta K, Ogawa H, Hashimoto H, Okano W, Tani A, Sato E, Kosugi I, Kobayashi T, Omori K, Suzutani T*. Restricted infection of murine cytomegalovirus (MCMV) in neonatal mice with MCMV-induced sensorineural hearing loss. J Clin Virol. 2015 Aug;69:138-45. (IF: 3.993)

インパクトファクターの小計 [3.99]

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松島紗代実、藤澤朋幸、原田雅教、河野雅人、榎本紀之、中村祐太郎、乾直輝、且黒史織、岩下寿秀、馬場聡、須田隆文：腎移植後に多剤耐性緑膿菌感染をきたした1例、THE LUNG-perspectives 23 巻4号 page 318-322、2015年11月【肺】

インパクトファクターの小計 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Misawa K, Kawasaki H, Endo S, Mochizuki D, Morita K, Hashimoto Y, Misawa Y, Kikuchi H, Kanazawa T, Iwashita T, Mineta H. Primary combined small and squamous cell carcinoma of the hypopharynx: A case report. Mol Clin Oncol. 2016 May;4(5):709-714.

インパクトファクターの小計 [0]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数（出願中含む）	1 件

含水状態の生物試料の電子顕微鏡観察用保護剤、電子顕微鏡観察用キット、電子顕微鏡による観察、診断、評価、定量の方法並びに試料台 出願番号 PCT/JP2015/052404 出願日 2015 年 1 月 28 日

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 27 年度
（１）科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	3 件 (360 万円)
（２）厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)
（３）日本医療研究開発機構（AMED）による研究助成	0 件 (0 万円)
（４）科学技術振興機構(JST) による研究助成	0 件 (0 万円)
（５）他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
（６）財団助成金	0 件 (0 万円)
（７）受託研究または共同研究	3 件 (1,600 万円)
（８）奨学寄附金	0 件 (0 万円)

（１）科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）

1. 基盤研究 C: i P S および E S 細胞における新たなサイトメガロウイルス感染抑制因子の解析
2. 若手研究(B)、ヒト pericyte 特異的マーカーの検討および病理診断学への応用
3. 基盤研究（C）(一般)「サイトメガロウイルス感染による絨毛間質血管リモデリング異常と胎盤・胎仔障害の解析」130万円

（７）受託研究または共同研究

1. 研究題目：病理組織診断の研究への応用、機関名：松田病院
 2. 研究題目：病理組織診断の研究への応用、機関名：遠州予防医学研究所
 3. 研究題目：病理組織診断の研究への応用、機関名：国立病院機構豊橋医療センター
- 計 約 1600 万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
（１）特別講演・招待講演回数	0 件	1 件
（２）シンポジウム発表数	0 件	0 件
（３）学会座長回数	0 件	2 件
（４）学会開催回数	0 件	0 件
（５）学会役員等回数	0 件	1 件
（６）一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

1. 坂尾万幾子, 河崎秀陽, 岩下寿秀, 宮嶋裕明, 筒井祥博, 小杉伊三夫: マウスサイトメガロウイルス胎盤内感染モデルを用いた大脳皮質形成障害発生機構の解析: 第 63 回日本ウイルス学会学術集会, 博多(2015.11)
2. 幹細胞に着目した中枢神経系サイトメガロウイルス感染症の病理発生, 秋期日本病理学会、A 演説、2015 年 11 月 6 日

ポスター発表

1. 坂尾万幾子, 河崎秀陽, 岩下寿秀, 宮嶋裕明, 筒井祥博, 小杉伊三夫: サイトメガロウイルス感染に対する胎生期マクロファージ/ミクログリア異常反応と大脳皮質形成障害: 第 104 回日本病理学会総会, 名古屋(2015.4)
2. 急性期サイトメガロウイルス大脳感染における感染標的細胞とβ1 インテグリンとの関係, 日本病理学会、ポスター発表、2015年5月1日 名古屋
3. 肝原発のいわゆる腺肉腫の一例、第 104 回日本病理学会総会、2015 年 5 月 1 日、名古屋

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表
- 4) 座長をした学会名
 1. 第 104 回日本病理学会総会、2015 年 5 月 1 日、名古屋
 2. 第 63 回日本ウイルス学会学術集会、博多(2015.11)

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本病理学会評議員

”Pathology International”刊行委員

“Frontiers in Virology” 査読委員

ヘルペスウイルス研究会 世話人

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1 件	1 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

小杉伊三夫 Pathology International 刊行委員 登録有 1.371

(2) 外国の学術雑誌の編集

World Journal of Virology : Editorial Board

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

Journal of Pathology 2 回

Journal of world Virology 5 回

Future Medicine 1 回

9 共同研究の実施状況

	平成 27 年度
(1) 国際共同研究	2 件
(2) 国内共同研究	5 件
(3) 学内共同研究	3 件

(1) 国際共同研究

1. Hox 遺伝子による神経堤細胞の特異性決定と遊走能について
アメリカ合衆国 (ミシガン大学) 2009 年～、資料の交換
2. CMV の胎生期脳感染 (ジョンズ・ホプキンス大学神経科学部、ハーバード大学ベス・イスラエル・デコネス病院内科、カリフォルニア大学サンフランシスコ校細胞組織生物学研究室) 2007 年～、資料の交換

(2) 国内共同研究

1. 神経芽腫幹細胞の研究 (愛知医科大学) 2009 年～
2. 炎症性腸疾患のマウスモデル (京都大学医学部)
3. 神経幹細胞を用いた ips 細胞の作製 (横浜市立大学医学部)
4. 経胎盤 CMV 感染症 (国立感染症研究所ウイルス第一部)
5. 乳腺針生検検体の多施設比較 (NHO 名古屋-乳腺病理遠隔診断共同研究)

(3) 学内共同研究

1. ヒト膀胱尿路上皮・上皮下における β 受容体の局在と機能
2. 喉頭癌における cancer stem cell の局在と病理
3. コカイン誘発性行動感作と MHC 抗原クラス I 分子に関する研究

10 産学共同研究

	平成 27 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

- (1) 国際的な授賞
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での授賞

河崎秀陽 日本病理学会奨励賞 11月

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 筋線維芽細胞の characterization

炎症および線維化の過程で出現する筋線維芽細胞は臓器の線維化（肺線維症、肝硬変など）において、非常に重要な役割を果たしているが、その実態は明らかでないことが多い。FACS を用いて筋線維芽細胞を純化する方法を開発し、筋線維芽細胞の性格を明らかにした。

2. 光る変異ウイルスによる発育期マウス脳における感染動態の解析

非神経細胞とは異なる神経細胞特異的な e1-pro 活性化機構が MCMV の神経病原性に関わると推測される。今年度は、e1-pro の長さを変えた e1-pro-EGFP を組み込んだ MCMV を作製し、発育期大腦及び培養神経細胞における実際のウイルス感染で神経細胞と非神経細胞における e1-pro 活性の発現を比較した。その結果、1373nt の上流域を欠失した 448nt の e1-pro 活性は、非神経細胞では認めたが、神経細胞では大腦及び培養細胞の何れにおいても認めなかった。従って、e1-pro の上流域に神経細胞特異的な活性化領域が存在すると推測された。齧歯類の出生後 1～2 週はヒトでは胎生後期に相当し、脳成熟に向けた遺伝子発現の再編成が活発に行われ、発達障害に対する脆弱性が高い臨界期と考えられている。以上から、この時期に一致した発育期の神経細胞に特異的な e1-pro 活性化機構が CMV の神経病原性に深く関わることを示唆された。

3. 細胞の分化に伴うクロマチン再構成とサイトメガロウイルスの感染感受性

神経系におけるサイトメガロウイルス（CMV）感染感受性がいかに制御されているかまだ明らかではない。最近、CMV 感染におけるウイルスゲノムのクロマチン修飾が感染感受性にとって重要な機序といわれており、ヒストン脱アセチル化酵素（HDAC）の量と相関しているともいわれている。我々は大脳における CMV 急性感染での HDAC 局在と CMV 感染細胞の局在を比較した。また神経系における HDAC 阻害剤の CMV 感染感受性への影響を in vivo、in vitro で検討した。方法としてはマウス感染脳における HDAC2 とマウスサイトメガロウイルス（MCMV）前初期抗原（IE1）の局在を免疫染色で比較し、神経系培養細胞で HDAC 阻害剤添加後の MCMV 感染感受性変化も比較した。結果としては大脳における HDAC2 の局在は主に neuron に多くみられ、subventricular zone や subpial 部分の細胞の HDAC2 発現は neuron より低く、その場所に MCMV IE1 の発現が多かった。また神経系細胞における HDAC 阻害剤の影響は濃度依存性に MCMV 感染感受性が高くなる傾向を示した。神経系における急性期 MCMV 感染において、CMV 感染感受性細胞と HDAC の活性は逆相関を示し、神経系細胞のクロマチンの状態が感染感受性に関係する可能性を示した。

4. 人のサイトメガロウイルス感染剖検例による間質性肺炎の成立機序に関する研究

間質性肺炎の原因のひとつとしてウイルス性肺炎があり、その中ではサイトメガロウイルス（CMV）

肺炎が最も頻度が高い。CMV は種々の免疫力低下時に再活性化し、ときには重篤な CMV 肺炎によって死亡する場合があるが、CMV 肺炎がどのような機序で病変を形成するか十分に明らかになっていない。このため、CMV 高度感染を示す病理解剖例 7 例について CMV 肺炎における感染細胞の細胞特異性および間質線維化のメカニズムについて、免疫組織学的、分子生物学的手法を用いて検討を行った。CMV 肺炎の組織像として①びまん性肺泡障害（DAD）を呈する型、②間質の炎症と線維化を呈する型の大きく 2 つの組織像が確認され、前者では肺泡上皮細胞優位に CMV 感染細胞がみとめられ、後者では肺泡間質の間葉系細胞に多数の CMV 陽性細胞が観察された。パラフィン切片から抽出した RNA に対する半定量的 RT-PCR では、線維化の強い症例ほど TGF β 遺伝子の発現が増加する傾向が見られた。TGF β シグナルを活性化するインテグリンと CMV 感染との関係を調べたところ、CMV 感染巣ではインテグリン β_6 の発現増強がみられ、間質の炎症性線維性肥厚を伴っており、CMV 感染が TGF β を介した間質性病変を誘導している可能性が示唆された。

5. 人の潰瘍性大腸炎、クローン病の長期間追跡による臨床的と病理的比較解析

私達の教室で潰瘍性大腸炎（UC）、クローン病など炎症性腸疾患の症例について、市内専門病院と共同で 20 年以上に渡って生検および手術材料による追跡を行ってきた。UC 症例約 400 例、クローン症例約 50 例の臨床的、病理的所見をデータベース化した。臨床および病理所見の長期に渡る経過の対比を解析し、発症年齢、性差、高齢化との関連、病理像、感染所見との関連を解析している。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. FACS を用いて筋線維芽細胞を純化する方法を開発し、筋線維芽細胞の性格を明らかにした。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

15 新聞、雑誌等による報道

1. 静岡新聞 磐田南高校が浜松医大で実習 2015 年 8 月 19 日
2. 中日新聞、解剖体験、臓器を観察 浜松医科大で磐田南高生が実習 2015 年 8 月 26 日